

令和3年度 防災・減災に関する県民意識調査結果

1 調査の目的及び集計結果の概要

(1) 調査の目的

- 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の令和3年度の実績の把握
- 運動を進める上での課題の抽出や、その解決方策の検討

(ア) 対象者 : 県内在住の満18歳以上の男女5,000人
 (イ) 調査期間 : 令和4年2月22日(火)～3月11日(金)
 (ウ) 有効回答数 : 2,320件 (回答率46.4%)

(2) 集計結果の概要

① 全体指標

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R3 (目標)	R7 (目標)
	R3 (2月)	R4 (2月)		
避難の準備行動が できている人の割合	—	4.0%	26.0%	50.0%

【参考】「避難の準備行動ができている」の構成要素 (①かつ②の全てを実践)

①	【行動する】	マイ・タイムラインの作成
②	【知る】	災害の種類に応じた、避難場所・避難経路の確認
	【察知する】	災害リスク情報を自ら入手するためのツールを確保
	【行動する】	防災教室・防災訓練への参加
	【学ぶ】	防災教室・防災訓練への参加
	【備える】	非常持出品を用意し、かつ3日以上分の食糧及び飲料水を備蓄

② 個別指標

行動目標	行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果		R3 (目標)	R7 (目標)
		R3 (2月)	R4 (2月)		
知る	災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	71.6%	70.7%	81.1%	100%
	水害・土砂災害リスクの認知度	77.0%	76.4%	82.0%	100%
察知する	災害リスク情報を自ら入手するためのツールを確保している人の割合	—	76.5%	40.0%	80.0%
行動する	マイ・タイムラインを作成している人の割合	4.9%	6.8%	28.0%	60.0%
行動する・学ぶ	防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	44.9%	38.0%	47.9%	60.0%
備える	非常持出品を用意し、かつ3日分以上の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	54.6%	45.9%	57.7%	70.0%
	家具等の転倒防止を行っている人の割合	51.6%	56.7%	55.3%	70.0%

2 集計結果の分析等

この度の調査の集計結果について、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の成果指標とする行動をとっている人に見られる傾向などから、その数値を押し上げている主な要因、逆に伸びていない要因や課題などを探るため、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動推進会議の委員でもある2名の有識者により、社会心理学並びに防災の観点からの分析等を行っていただいた。

(有識者) 広島大学大学院総合科学研究科 教授 坂田 桐子 氏(社会心理学)
山口大学大学院創成科学研究科 准教授 瀧本 浩一 氏(防災)

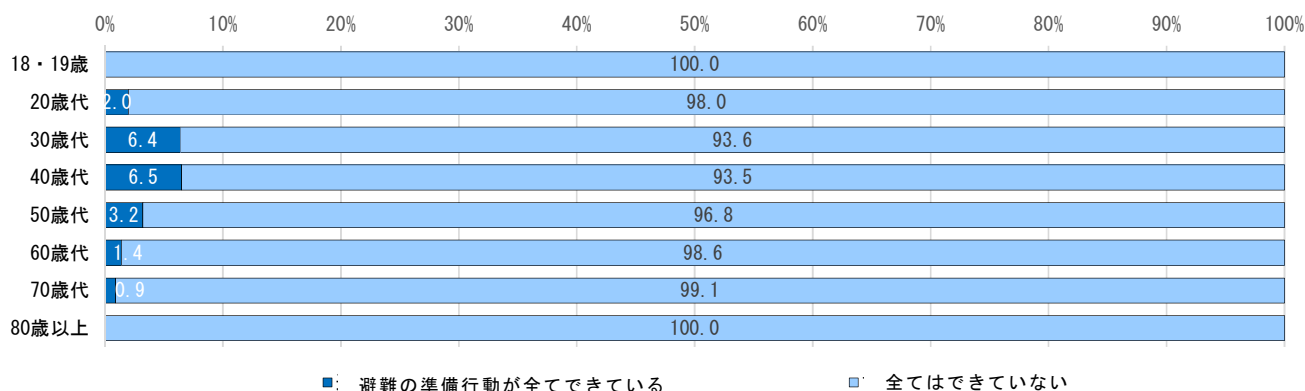
3 行動計画に掲げる成果指標ごとの分析概要

(1) 全体指標

行動計画に掲げる成果 指標項目	調査結果		R3 (目標)	R7 (目標)
	R3 (2月)	R4 (2月)		
避難の準備行動ができ ている人の割合	—	4.0%	26.0%	50.0%

- 避難の準備行動ができている人の割合について、年代別では「30 歳代 (6.4%)」と「40 歳代 (6.5%)」で高くなっているが、全体的に避難の準備行動が全てできている人は少ない。

<避難の準備行動ができている人の割合「年齢別」>



ア 有識者による分析や示唆など

- 避難の準備行動は普段からではなく、避難が必要となる時にするものと考えている住民がいるといえるのではないかな。
- 避難の準備行動ができている人の割合は低いため、各構成要素（個別指標）を地道に高めていく必要がある。特に、「マイ・タイムラインを作成している人の割合」をどう伸ばしていくかが重要となる。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 避難の準備行動ができている人の割合は、5つの構成要素（個別指標）によって構成されているため、個別指標の項目において、取組等を記載する。

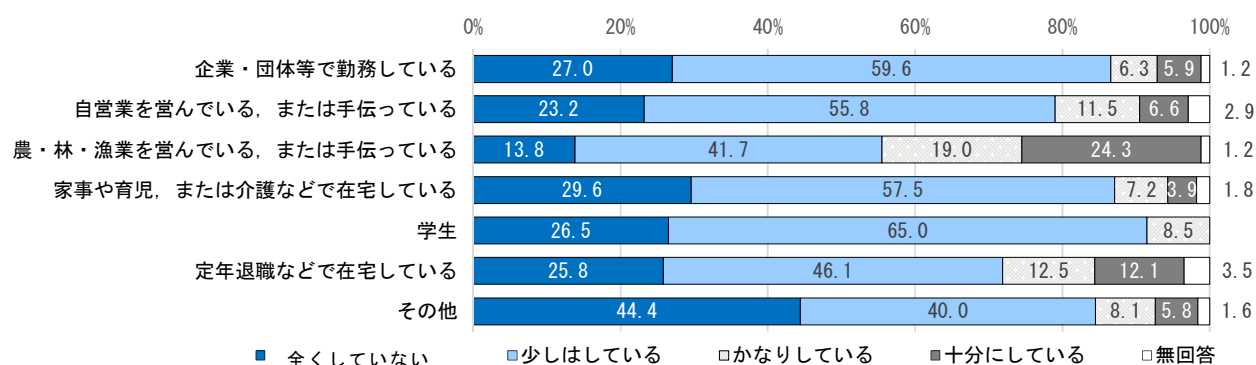
（２）【個別指標】身の周りの災害危険箇所などを「知る」

行動計画に掲げる成果 指標項目	調査結果		R3 (目標)	R7 (目標)
	R3 (2月)	R4 (2月)		
災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	71.6%	70.7%	81.1%	100%
水害・土砂災害リスクの認知度	77.0%	76.4%	82.0%	100%

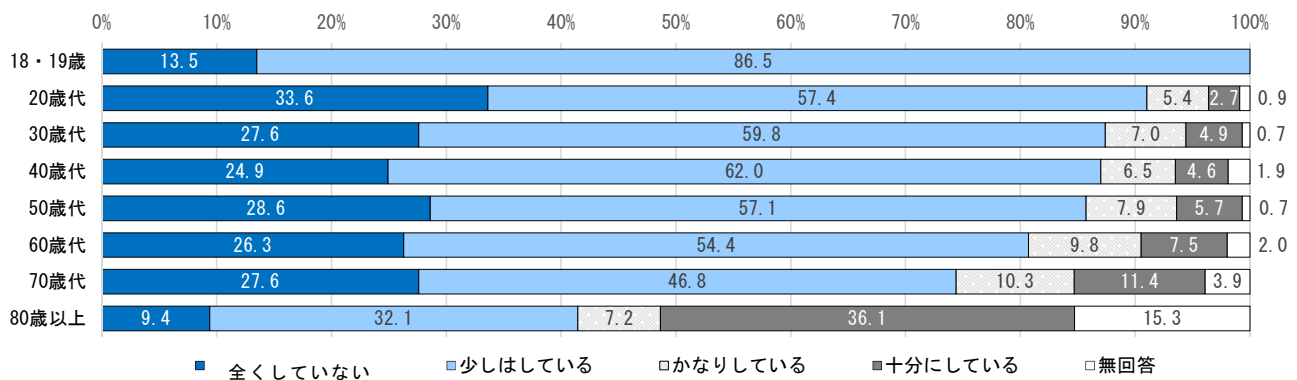
- 避難場所・避難経路を確認した人の割合について、生活形態別（※）では、「農林漁業」が「85.0%」と最も高く、次いで「自営業」の「73.9%」となっている。
- また、避難場所・避難経路を確認していない人の割合について、生活形態別では、「家事や育児などで在宅」をしている方が「29.6%」と最も高くなっている。
- 災害の危険性を確認する際に、困っていることでは、「どうやって確認するか分からない」が「33.2%」で最も割合が高く、次いで「調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい」が「25.0%」となっている。
- 水害・土砂災害リスクの認知度について、年代別では80歳以上で水害(96.5%)・土砂災害(97.0%)リスクどちらも9割台半ばと高くなっている。一方、20歳未満の若年層では水害(52.0%)・土砂災害(45.6%)リスクの認知度は低くなっている。

※ 生活形態の分類 ～ 「企業・団体勤務」、「自営業」、「農林漁業」、「家事や育児などで在宅」、「学生」、「定年退職などで在宅」

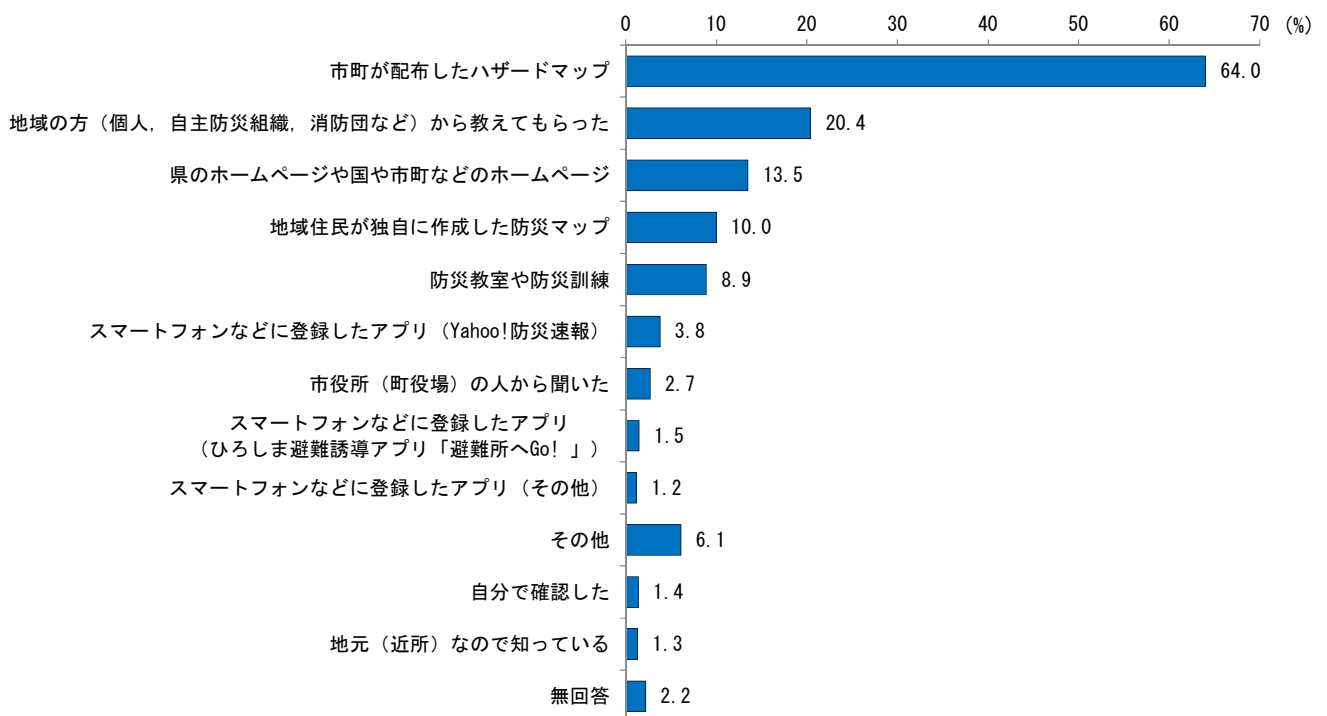
＜避難場所や避難経路の確認の有無「生活形態別」(Ⅱ：問7)＞



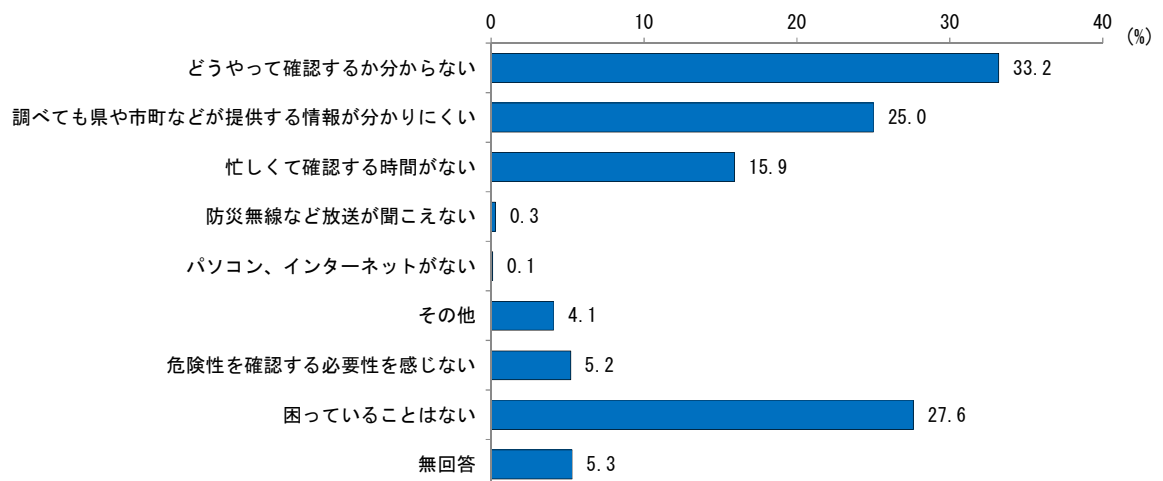
<避難場所や避難経路の確認の有無「年齢別」(Ⅱ：問7)>



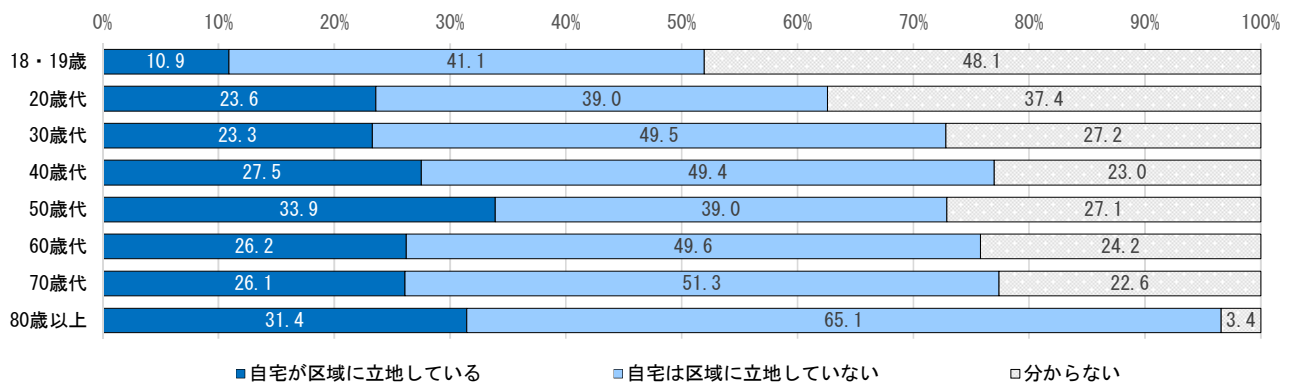
<避難場所や避難経路の確認方法(Ⅱ：問7-2)>



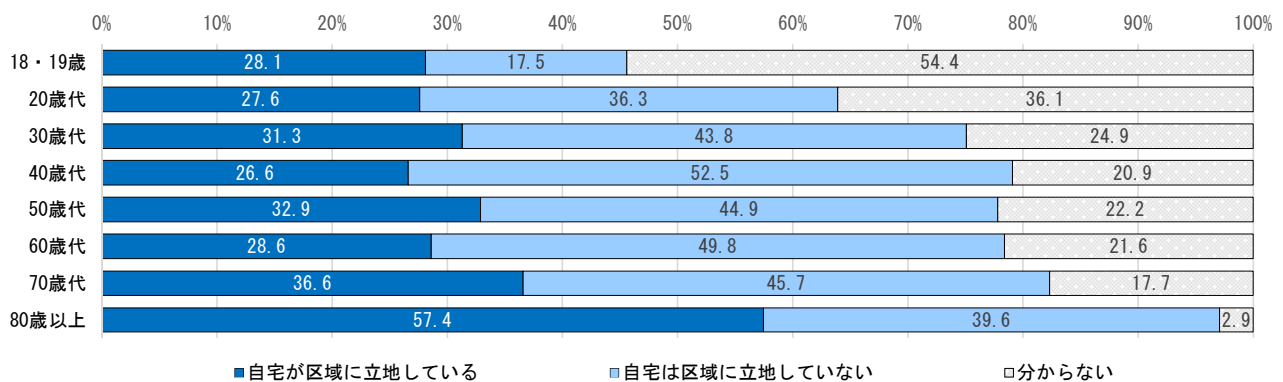
<災害の危険性を確認するに当たって, 困っていること(Ⅰ：問9)>



<洪水浸水想定区域の認知度「年齢別」(Ⅱ：問6①)>



<土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の認知度「年齢別」(Ⅱ：問6②)>



ア 有識者による分析や示唆など

- 水害・土砂災害リスクの認知度は年代が上がるほど高い一方で、避難場所や避難経路の確認を「全くしていない」人は各年代に一定数見られる。特に年代が高い層の場合は、居住地の水害・土砂災害リスクの有無を理解した上で、「住居が高層階にある」などの理由から立ち退き避難を想定していない人々がいることが考えられる。
- 災害の危険性を「どうやって確認するかわからない」、「調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい」という回答が上位を占めていることから、ハザードマップの見方の解説なども含めたわかりやすい情報提供を工夫する必要がある。
- 土砂災害は避難をしなければ被害を受ける可能性が高い災害であることから、特に土砂災害警戒区域等の認知度を上げる努力が急務であり、学校での周知や自主防災組織を中心とした地域組織による周知活動を行うとともに、該当地域の店舗や公共施設においての掲示を推進することが必要であると考えられる。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 引き続き報道機関と連携し、テレビやラジオ等の各種メディアや「みんなで減災推進大使」等を活用して、土砂災害の際には、住居が高層階であっても立ち退き避難が必要であることなど、適切な避難行動における正しい知識の普及啓発を行うとともに、ハザードマップの確認方法などについて、分かりやすい説明を行うよう取り組む。
- 「Yahoo!防災速報」アプリ内に実装されたマイ・タイムラインを作成できる機能（防災タイムライン）による、住所を入力するだけで、自宅周辺の災害の危険性を確認できる機能の活用を促していく。
- 引き続き小学校等を対象に、土砂災害や洪水に関する出前講座に取り組むとともに、土砂災害警戒区域等を示した標識の設置や、洪水氾濫により想定される浸水深を示した看板の設置を進め、水害・土砂災害リスクの認知度の向上に取り組む。

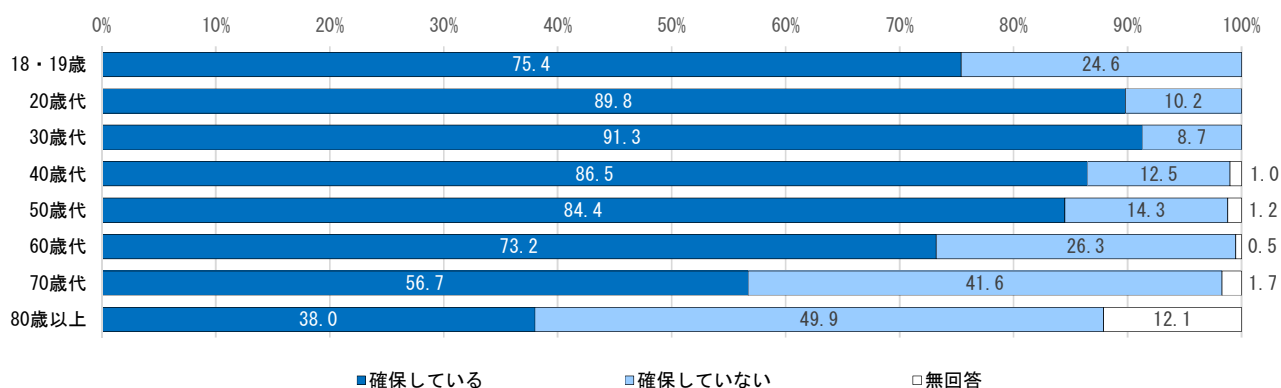
（３）【個別指標】 災害発生の危険性をいち早く「察知」する

行動計画に掲げる成果 指標項目	調査結果		R3 (目標)	R7 (目標)
	R3 (2月)	R4 (2月)		
災害リスク情報を自ら 入手するためのツール (※)を確保している人 の割合	—	76.5%	40.0%	80.0%

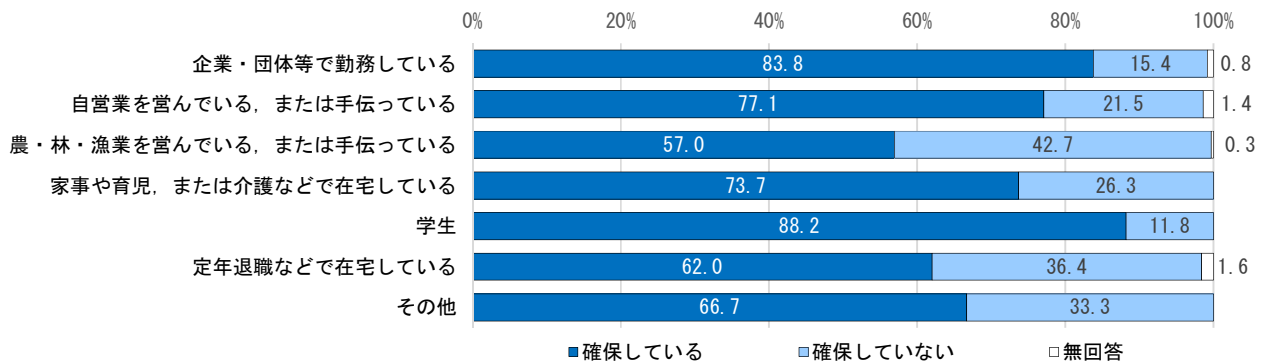
※ 防災情報メールや防災情報アプリ，SNS など

- 災害リスク情報を入手するためのツールを確保している人の割合について、年代別では「20歳代（89.8%）」と「30歳代（91.3%）」で約9割と高くなっており、生活形態別では「学生」で約9割（88.2%）と高くなっている。

<災害リスク情報の入手ツールの確保「年齢別」（Ⅱ：問9）>



<災害リスク情報の入手ツールの確保「生活形態別」（Ⅱ：問９）>



ア 有識者による分析や示唆など

- 企業・団体等勤務者や学生などの割合が多いことについて、気象警報等による休講情報や交通機関の運行状況などを早めに把握する必要があるためと推測されるが、在宅している人については、災害リスク情報をいち早く収集しようとする動機に欠ける可能性があるため、アプリや SNS のメリットなどのプロモーションを実施し、利用を促進していく必要がある。
- 若年層は、災害リスク情報の入手ツールを得る道具と選択肢を持っている一方で、年齢が上がるほど、ツールを確保していると回答している人が少なくなっている。スマートフォンやパソコンの操作が前提となる場合もあるため、高齢者が確保していないのは仕方のない部分はあるが、周囲の人がどう情報を提供し、支援するかといった仕組みづくりが重要であると考えられる。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

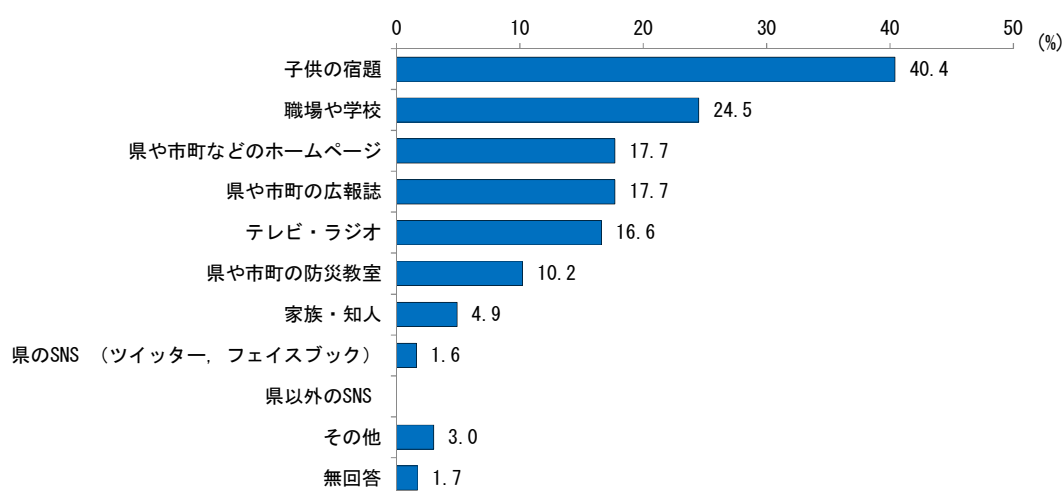
- 「Yahoo!防災速報」アプリ内にマイ・タイムラインを作成できる機能（防災タイムライン）が実装され、災害の危険性が高まったときには、プッシュ通知を受け取ることができる機能もあることから、防災タイムラインの普及促進を行う中で活用を促していく。
- SNS からの情報収集を促進するため、引き続き広島県防災ツイッターや広島県公式 Facebook から積極的に情報発信を行うとともに、これらの SNS ツールの活用の周知を図る。
- なお、災害リスク情報の入手ツールを確保することが難しい高齢者等に対しては、周囲からの呼びかけにより情報を提供する仕組みを構築するため、引き続き自主防災組織による避難の呼びかけ体制構築に取り組む。

(4) 【個別指標】 自ら判断して適切に「行動する」及び
防災教室や防災訓練などで「学ぶ」

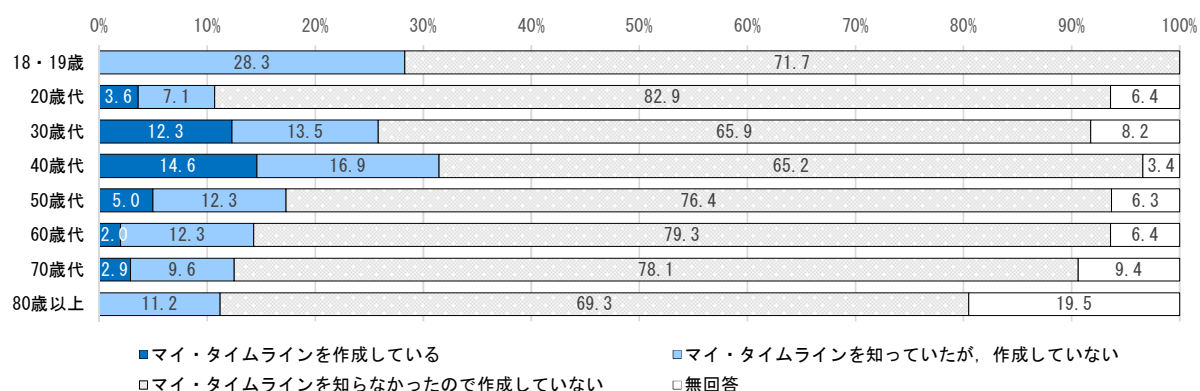
行動計画に掲げる成果 指標項目	調査結果		R3 (目標)	R7 (目標)
	R3 (2月)	R4 (2月)		
マイ・タイムラインを作成している人の割合	4.9%	6.8%	28.0%	60.0%
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	44.9%	38.0%	47.9%	60.0%

- 「ひろしまマイ・タイムライン」を知ったきっかけは、「子供の宿題」が「40.4%」と最も割合が高く、次いで「職場や学校」が「24.5%」となっている。
- マイ・タイムラインを作成していない理由は、「作成しなくても、避難すべき時は適切に避難できるから」が「32.1%」と最も割合が高く、次いで「興味はあったが、作る時間がなかった」が「28.4%」となっている。
- 防災教室・防災訓練への参加割合は、「家事や育児などで在宅」をしている方が「27.2%」と最も低くなっている。
- 防災教室・防災訓練に参加しなかった理由は、「実施していることを知らなかったから」が「48.8%」と最も割合が高く、次いで「仕事や家事，育児で忙しかったから」が「26.7%」となっている。
- 参加しなかった理由で、「仕事や家事，育児で忙しかったから」は「企業・団体勤務」で「36.4%」，「実施していることを知らなかったから」は「農林漁業」で「63.0%」と他の生活形態に比べ割合が高くなっている。

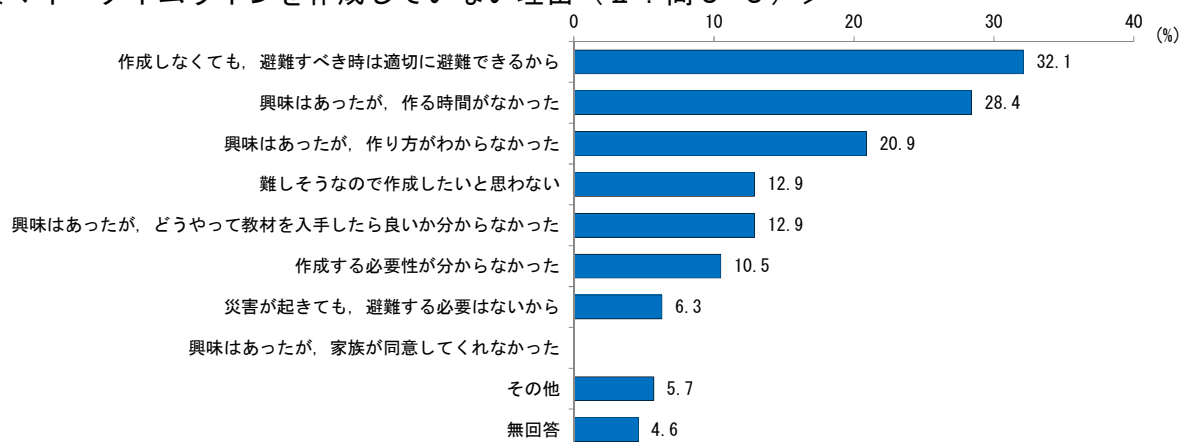
<「ひろしまマイ・タイムライン」を知ったきっかけ（Ⅱ：問3-1）>



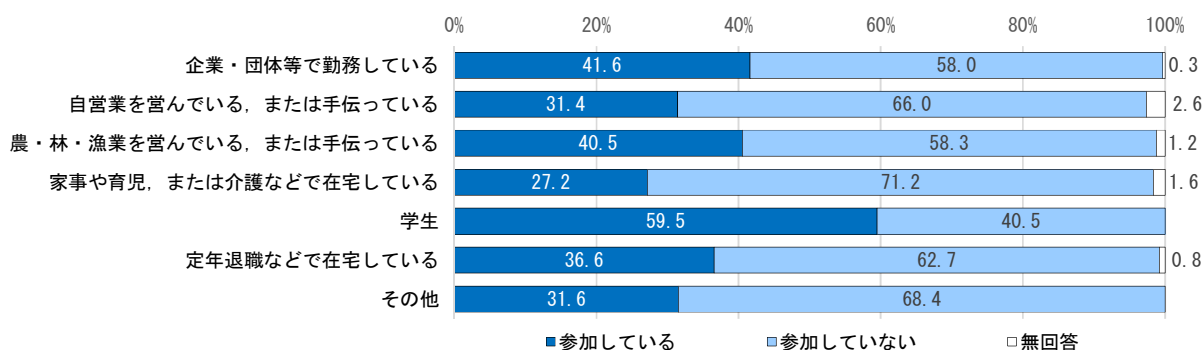
<マイ・タイムライン作成の有無と認知度「年齢別」(Ⅱ：問5)>



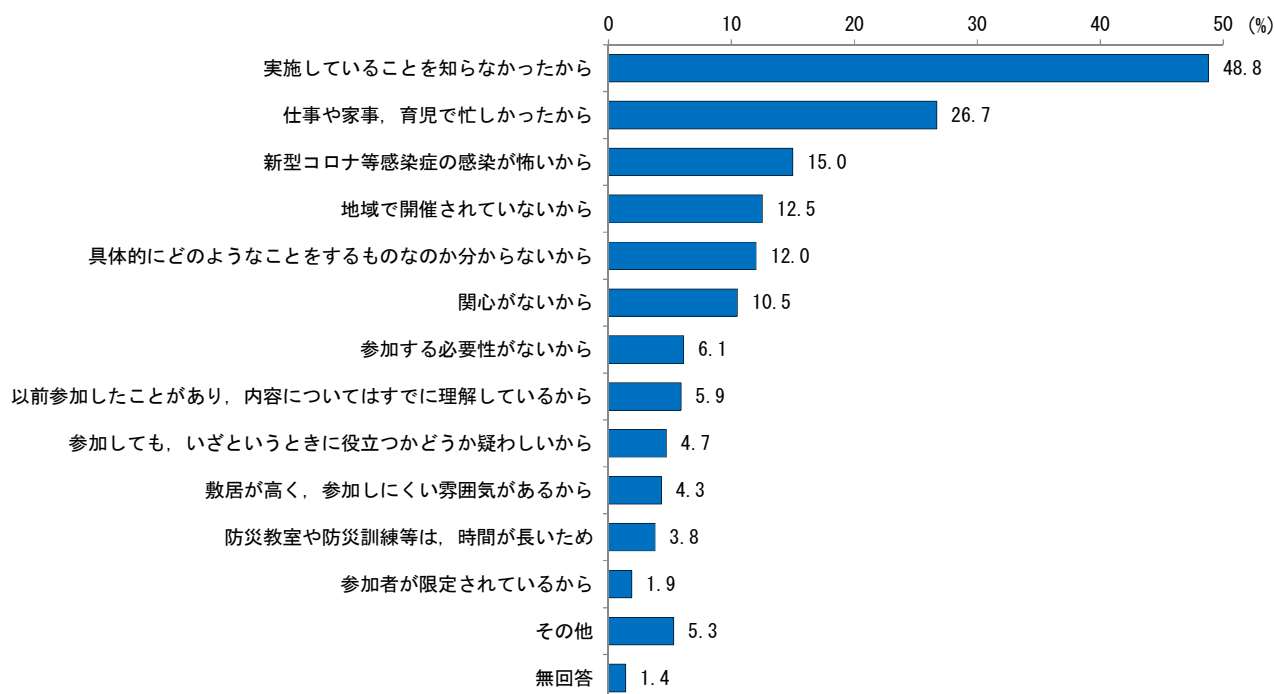
<マイ・タイムラインを作成していない理由(Ⅱ：問5-5)>



<過去1年間における防災教室・防災訓練への参加状況「生活形態」(Ⅱ：問15)>



<防災教室・防災訓練に参加しなかった理由（Ⅱ：問 15-1）>



ア 有識者による分析や示唆など

- マイ・タイムラインについては，認知度が低い，「ひろしまマイ・タイムライン」を知ったきっかけは，「子供の宿題」や「職場や学校」という回答が多いことから，今後も学校や職場での啓発を拡充することが有効と思われる。また，引き続きマスメディアを通じた認知度の向上も図る必要があると考えられる。
- マイ・タイムラインは，単に説明を読んだだけで作成することは難しいため，動画などにより身近に作成ノウハウを学べる環境整備を行う必要があると考えられる。
- 防災教室・防災訓練へ参加しなかった理由として「実施していることを知らなかったから」，「仕事や家事，育児で忙しかったから」の回答率が高く，生活形態が多様化しているなかで，地域において開催情報の周知を徹底し，特定の日時・場所での防災教室・防災訓練への参加者を増やすことは難しいと思われる。職場や学校での訓練を拡充するほか，時間・場所に依存しない形での防災教室・防災訓練の企画を充実させることが必要である。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 学校において「ひろしまマイ・タイムライン」を活用した防災教育が定着し、より多くの児童・生徒がマイ・タイムラインの作成に取り組めるよう、引き続きマイ・タイムライン推進員による出前講座や「一斉防災教室」に取り組むとともに、家庭学習により保護者へもその学習効果を拡大させることにより、防災意識の向上に取り組む。
- 引き続き報道機関と連携し、テレビやラジオ等の各種メディアや「みんなで減災推進大使」等を活用して、マイ・タイムラインの認知度向上を図るとともに、「Yahoo!防災速報」アプリ内に実装された、マイ・タイムラインを作成できる機能（防災タイムライン）の普及促進に取り組む。
- 「ひろしまマイ・タイムライン」については、作成方法の動画を公開している専用サイトの周知に取り組むとともに、「防災タイムライン」についても、新たに「みんなで減災」推進大使を活用した作成支援動画を制作するなど、ひとりでも作成方法を学べる環境整備に取り組む。
- 「Yahoo!防災速報」アプリの「防災トレーニング」機能など、民間の防災アプリを活用し、時間・場所を問わない防災訓練の普及促進に取り組む。
- 防災教室・防災訓練へ参加した人の割合が前回調査より減少した理由について、新型コロナウイルスの感染拡大により、防災教室や防災訓練などのイベント、行事の開催が減少したことが考えられる。引き続き全県民を対象とした「一斉防災教室」や「一斉地震防災訓練」を実施し、学校や企業だけでなく、地域での防災訓練の実施を呼びかけていく。

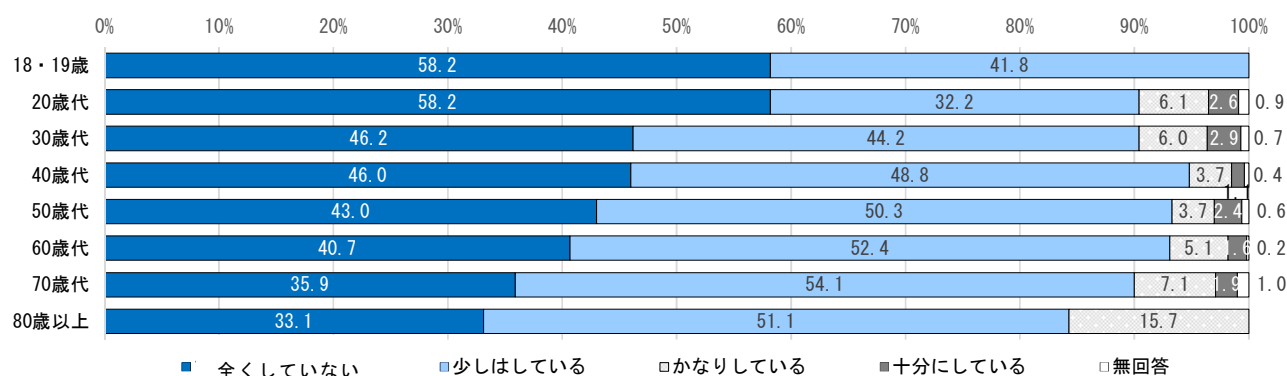
（５）【個別指標】 非常持出品等を準備するなど災害に「備える」

行動計画に掲げる成果 指標項目	調査結果		R3 (目標)	R7 (目標)
	R3 (2月)	R4 (2月)		
非常持出品を用意し、かつ3日以上 の食糧及び飲料水を備蓄している 人の割合	54.6%	45.9%	57.7%	70.0%
家具等の転倒防止を行っている 人の割合	51.6%	56.7%	55.3%	70.0%

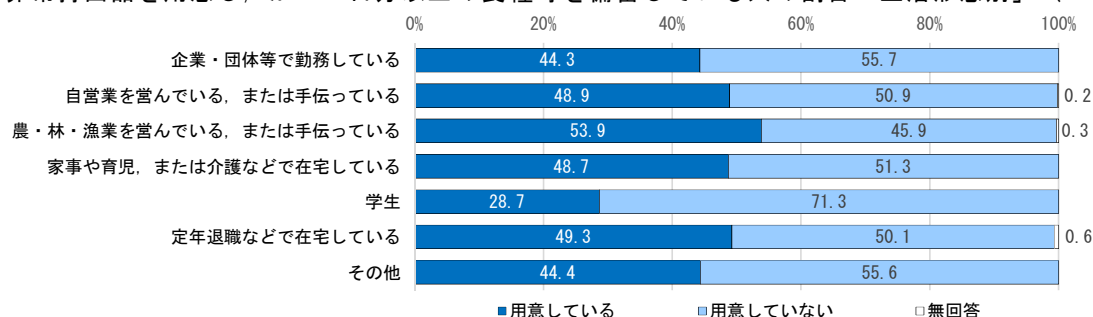
- 非常持出品を用意している人の割合について、「20歳未満（41.8%）」、「20歳代（40.9%）」の若年層を除くすべての年代で半数を超えており、男女別でも大きな差はみられない。
- 備蓄を行わない理由は、「備えていても消費期限が来たら、無駄になるから」が「42.2%」と最も割合が高く、次いで「何をどれくらい備えればよいか分からないから」が「36.3%」となっている。

- 家具などの転倒防止を行っていない理由は、「倒れそうな家具等はあるが、倒れても支障のないところに置いてあるから」が「37.0%」と最も割合が高く、次いで「手間や費用がかかるから」が「30.7%」となっている。

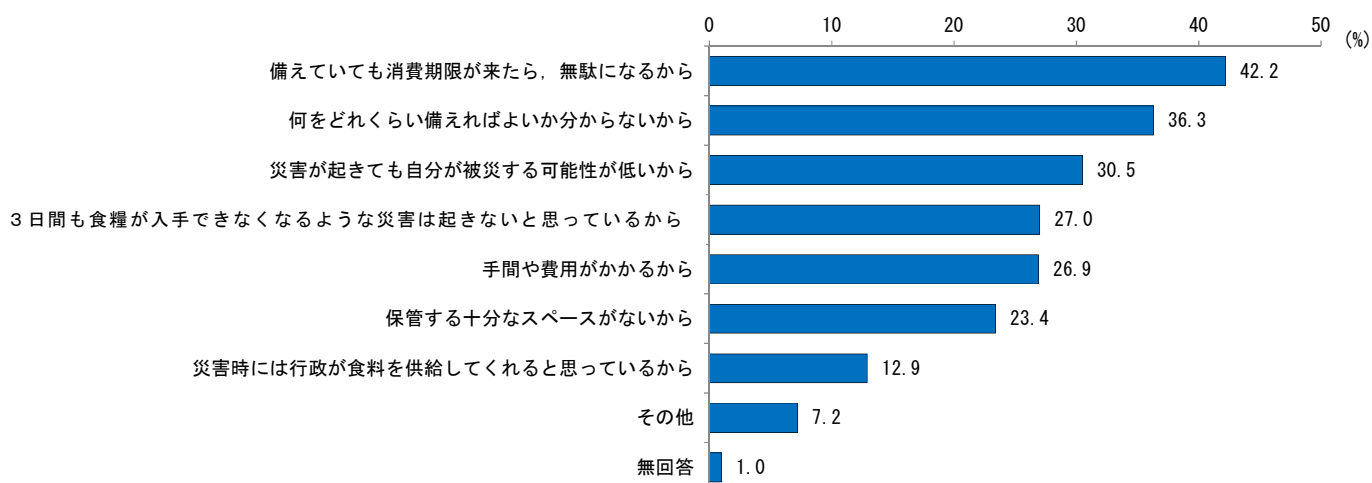
<非常持出品を用意している人の状況「年齢別」(Ⅱ：問14)>



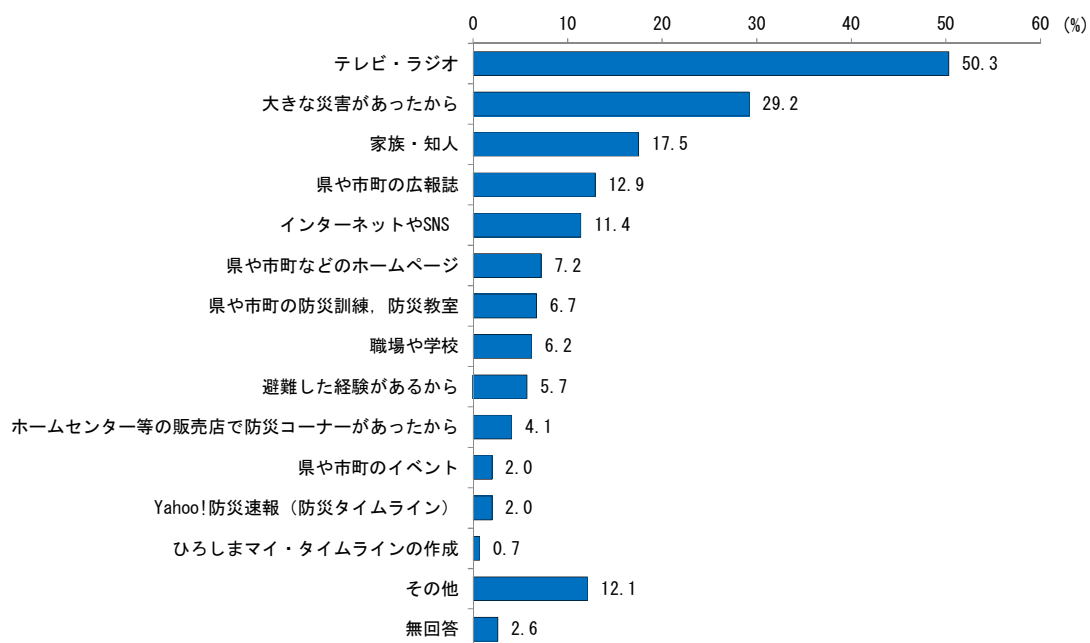
<非常持出品を用意し、かつ3日以上の食糧等を備蓄している人の割合「生活形態別」(Ⅱ：問14)>



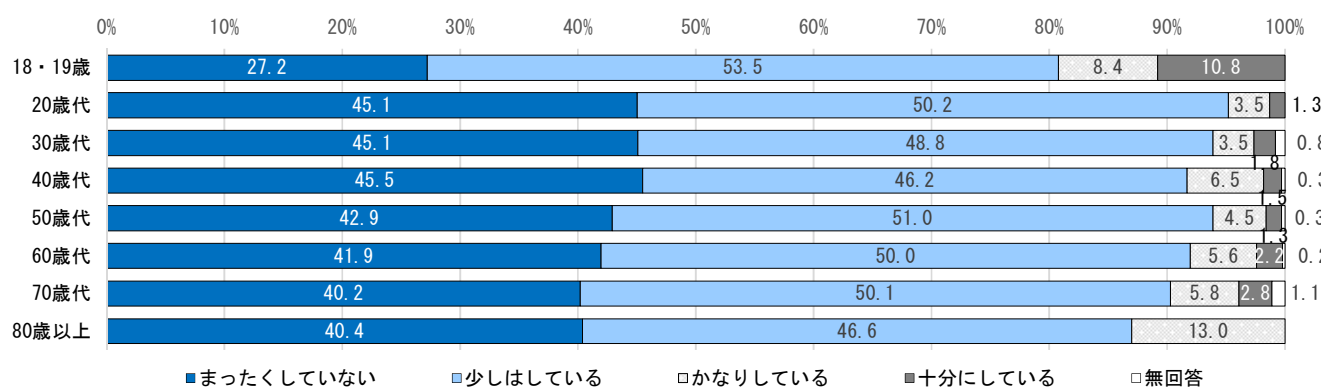
<備蓄を行わない理由(Ⅱ：問13-2)>



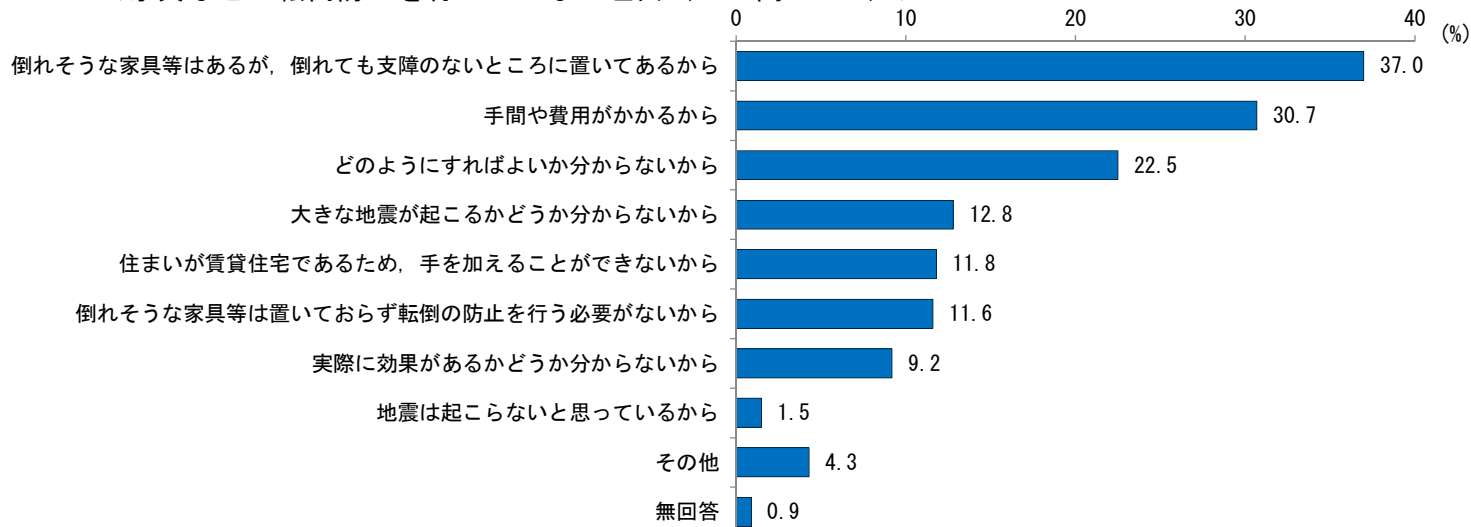
< 備蓄を行ったきっかけ（Ⅱ：問 13-3） >



< 家具などの転倒防止の実施状況「年齢別」（Ⅱ：問 16） >



< 家具などの転倒防止を行っていない理由（Ⅱ：問 16-1） >



ア 有識者による分析や示唆など

- 非常持出品等を準備している割合が前回調査より減少している理由について、新型コロナウイルスの感染拡大により、親族宅等へ避難することを想定している人が増えた結果、自分で非常持出品等を準備する必要がないと考えているのではないかと考えられる。
- 備蓄を行わない理由として「備えていても消費期限が来たら、無駄になるから」の回答率が高いことから、ローリングストック法などが知られていない可能性がある。この点を含め、有効な備蓄方法を啓発していく必要がある。
- また、理由として「災害が起きても自分が被災する可能性が低いから」、「3日間も食糧が入手できなくなるような災害は起きないと思っているから」がいずれも3割近く回答されているのは懸念される点であり、災害が無縁ではないことを啓発する必要があると考えられる。
- 家具などの転倒防止をしない理由については、「手間や費用がかかるから」という理由が多いことから、実行のコスト（労力や費用）が大きいと思っているために実行に移れていないことが推測され、コストがかからない簡便な転倒防止法等について周知する必要がある。
- また、ホームセンター等が、家具等の固定を行う商品を紹介し、多忙な中でも対策ができるよう、支援することも考えられる。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 親族宅等への避難を想定していたとしても、医薬品等、個人によって必要なものは異なることから、自らの非常持出品の用意を行うよう啓発に取り組む。
- 引き続き報道機関と連携し、テレビやラジオ等の各種メディアや「みんなで減災推進大使」等を活用して、災害備蓄品のローリングストック法や具体的品目・量、保管に必要なスペースなどの情報に加え、家具の転倒防止のメリットや固定方法などの具体的な情報発信に取り組む。
- 「災害が起きても自分が被災する可能性が低いから」、「3日間も食糧が入手できなくなるような災害は起きないと思っているから」と回答している人が多いことから、新たに SNS 等を活用し、過去の災害時において、商品を購入できない状況があったことなどを発信することで、非常持出品等の準備を行う必要性の啓発に取り組む。
- 「何をどれくらい備えればよいか分からないから」と回答している人が多いことから、「Yahoo!防災速報」アプリ内に実装された「防災タイムライン」による、世帯構成を入力するだけで必要な備蓄品の品目や数量を確認できる機能の活用を促していく。
- 引き続き「備えるフェア」を実施し、小売店舗やホームセンター、家具販売店等の協力を得て、来店者等に対し備えの必要性等の啓発を行い、非常持出品や備蓄品の販売促進に取り組むとともに、安価で、取り付けが簡単な上に効果的な転倒防止対策商品の紹介を行う。

調 査 票

防災・減災に関するアンケートへのご協力をお願い

日頃から県行政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

広島県では、平成 26 年 8 月の土砂災害の教訓を踏まえ、県民の皆様お一人お一人に、いつ、どこで起きるかも分からない自然災害から、ご自分の命を守るための行動をとっていただくことができるよう、平成 27 年 4 月から、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を展開しています。

この運動の推進にあたり、防災・減災に関する県民の皆様の意識や行動内容及び情報の入手手段などの実態を把握して、今後の防災・減災対策に活かすため、概ね年に一度、防災・減災に関するアンケートを行うこととしております。

このアンケートは県内にお住まいの 18 歳以上の方 5,000 人を選挙人名簿から無作為に選んで行うものです。調査で得た結果はすべて統計的に処理をし、調査以外の目的では使用いたしませんので、皆様にご迷惑がかかることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、自然災害による死者ゼロの実現を目指し、この取組を今後、さらに効果的に進めていくため、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和 4 年 2 月

広島県危機管理監みんなで減災推進課

ご記入にあたってのお願い

- 質問は、全部で約 50 問あります。ご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。
ご本人の記入が難しい場合は、ご本人の意向を確認いただき、ご家族の方等がご記入ください。
- 調査票や封筒にあなたのご住所、お名前を記入する必要はありません。
- アンケートの所要時間は 15 分程度です。
- ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をしてください。選択肢で「その他」を選択した場合は（ ）内に内容を具体的にご記入ください。
- ご回答は、設問ごとに（○は 1 つ）（○はいくつでも）など指定されていますので、ご注意ください。
- 設問によって回答していただく方が限られる場合があります。説明文や矢印に従ってお進みください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）で **3 月 11 日（金）** までに投函してください。返送先は調査の実施・集計を委託している株式会社サーベイリサーチセンターになります。

広島県危機管理監みんなで減災推進課

住 所：〒730-8511 広島市中区基町 10 番 52 号

電 話：082-513-2781

FAX：082-227-2122

Eメール：kikigensai@pref.hiroshima.lg.jp

I あなたの災害に対する意識とご経験についてお尋ねします

問1 令和元年5月に災害時にとるべき避難行動が直感的にわかるよう、5段階の警戒レベルを用いた避難情報等の運用が導入され、令和3年5月には、災害対策基本法が改正され、警戒レベル4に位置付けられていた「避難勧告」と「避難指示（緊急）」が「避難指示」に一本化されました。あなたは警戒レベルを正しく認識し、ご自身がどの警戒レベルが発令された場合に避難しなければならないか分かりますか。（○は1つ）

- 1 認識しており、避難しなければならないタイミングが分かる
- 2 聞いたことはあるが、避難すべきタイミングは分からない
- 3 分からない

【全員にお尋ねします。】

問2 あなたは、市町が指定している避難場所のイメージをどう持たれていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

避難場所のイメージ	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
①トイレが不便	1	2	3	4
②プライバシーがない	1	2	3	4
③風呂に入れない	1	2	3	4
④エアコンが効かない	1	2	3	4
⑤自由に使える電源がない	1	2	3	4
⑥飲食物が手に入らない	1	2	3	4
⑦要配慮者（子供や高齢者等）が居づらい	1	2	3	4
⑧授乳場所がない	1	2	3	4
⑨ペットを連れていけない	1	2	3	4
⑩不衛生である	1	2	3	4
⑪感染症（新型コロナウイルス感染症等）への対策がとられていない	1	2	3	4

問3 あなたは、市町が指定している避難場所での設備の有無などについて、知っていますか。
各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

	知っている	知らないが 知りたい	知らないし 知る必要が ない
①駐車場の有無や駐車可能な台数	1	2	3
②洋式トイレの有無や数	1	2	3
③エアコン設置の有無	1	2	3
④水や食料、シートや毛布などの備蓄品の種類 や量	1	2	3
⑤テレビやラジオの有無	1	2	3
⑥ペットの受け入れの可否	1	2	3
⑦風呂やシャワー設備の有無	1	2	3
⑧避難場所までの経路の安全性（途中で川や 土砂災害の危険のある地域がないか）	1	2	3
⑨非常用電源の有無	1	2	3
⑩プライバシーの確保	1	2	3

【問3で①～⑩のいずれかで1つでも「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問3-1 問3で「1 知っている」と回答した項目について、どのような方法で知りましたか。
(○はいくつでも)

- 1 インターネット（広島県防災ウェブ「VACAN Maps〔避難所の混雑状況〕」）
- 2 インターネット（広島県「みんなで減災」はじめての一步）
- 3 インターネット（市町ホームページ）
- 4 県や市町の防災情報メール
- 5 その他（ ）

【問3で①～⑩のいずれかで1つでも「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問3-2 避難場所の設備の有無等（問3-1で知った情報）について、該当する番号1つに○
をつけてください。

- 1 現在の発信項目で十分
- 2 発信項目を充実させてほしい（下記に具体的な項目を記入）
（具体的な項目： ）

【全員にお尋ねします。】

問4 あなたは、市町が指定している避難場所で行われている、新型コロナウイルス感染症対策について、知っていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

	知っている	知らないが 知りたい	知らないし 知る必要が ない
①アルコール消毒の準備	1	2	3
②検温の実施	1	2	3
③発熱者とそうでない人の分離	1	2	3
④「3密」を防ぐためのテントや間仕切りの導入	1	2	3
⑤ソーシャルディスタンスの確保	1	2	3
⑥定期的な換気の実施	1	2	3
⑦共用部分の定期的な清掃	1	2	3
⑧車中避難用の避難先の確保	1	2	3
⑨以前よりも多くの避難場所を開設	1	2	3
⑩以前よりも避難場所内の多くの部屋を開放	1	2	3
⑪定員の見直し	1	2	3

問5 あなたのお住まいの場所では、どのような災害の危険性が想定されているか知っていますか。(○は1つ)

- 1 知っている → 問6～8へ
- 2 知りたいが知らない → 問9へ
- 3 知りたくない → 問9へ

【問5で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問6 どのような災害による危険性を認知されましたか。(○はいくつでも)

- 1 土砂災害
- 2 洪水による浸水
- 3 高潮による浸水
- 4 津波による浸水
- 5 地震に伴う家屋等の倒壊など
- 6 危険性はない

【問5で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問7 あなたのお住まいの地域の災害の危険性の有無をどのようなきっかけで知りましたか。

(〇はいくつでも)

- 1 自分でパソコンを使ったり、人に聞いたりして調べた
- 2 家族に聞いた(話し合った)
- 3 地域の方(個人、自主防災組織、消防団)に教えてもらった
- 4 地域の住民ではない友人や知人に教えてもらった
- 5 市役所(町役場)の人に教えてもらった
- 6 職場で教えてもらった
- 7 学校で教えてもらった
- 8 ひろしまマイ・タイムラインを作成する過程で知った
- 9 Yahoo!防災速報アプリの防災タイムラインを作成する過程で知った
- 10 そのほかのマイ・タイムラインを作成する過程で知った
- 11 自ら災害を経験した
- 12 家族(親戚)・知人が災害を経験した
- 13 その他()

【問5で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問8 災害の危険性の有無を確認した方法をお答えください。(〇はいくつでも)

- 1 県の防災Webや市町のホームページなどで公開されているハザードマップ^(※)
- 2 市町が紙に印刷して配布したハザードマップ^(※)
- 3 県の防災Webや市町のホームページなどで公開している震度分布図、揺れやすさマップ、土砂災害危険箇所図、土砂災害警戒区域図・特別警戒区域図、洪水・高潮・津波浸水想定区域図等
- 4 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 5 Yahoo!防災速報アプリ(防災タイムライン)
- 6 実際に地域を歩いてみた
- 7 その他()

※ハザードマップ：自然災害(地震・津波・洪水・土砂災害等)による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被害想定区域や避難場所などを表示した市町が作成する地図

【全員にお尋ねします。】

問 9 災害の危険性の有無を確認するに当たって、困っていることをお答えください。

(○はいくつでも)

- 1 どうやって確認するか分からない
- 2 忙しくて確認する時間がない
- 3 調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい
- 4 その他 ()
- 5 危険性を確認する必要性を感じない
- 6 困っていることはない

問 10 令和元年6月から、警戒レベルを用いた避難情報等が発令・発表されていますが、あなたは、事前に避難のタイミングを決めていますか。(○は1つ)

- 1 警戒レベル3（高齢者等避難）、警戒レベル4（避難指示）の避難情報で避難することを決めている
- 2 大雨・洪水注意報、大雨・洪水警報などの気象情報で避難することを決めている
- 3 水位などの周辺の状況で避難することを決めている
- 4 その他 ()
- 5 避難するタイミングを決めていない

【問 10 で 1～4 のいずれかを回答した方にお尋ねします。】

問 11 避難のタイミングを決めたきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 自ら災害を経験した
- 2 家族（親戚）・知人が災害を経験した
- 3 自ら災害を経験していないが、災害に関する報道を見て避難のタイミングを決めることが必要と感じた
- 4 ひろしまマイ・タイムラインを作成した
- 5 Yahoo!防災速報アプリの防災タイムラインを作成した
- 6 防災訓練、防災教室に参加した
- 7 学校で防災について学習した
- 8 職場で防災について話があった
- 9 地域の方（個人・自主防災組織・消防団）から話があった
- 10 その他 ()

問 12 令和元年6月から広島県や各マスコミでは、「あなたが避難することが、みんなの命を救うことにつながります」というメッセージを使用して避難を呼びかけていますが、あなたは、このことを知ったり、聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

- 1 知っている
- 2 知らない

Ⅱ あなたの災害に対する備えや災害時の行動についてお尋ねします

問1 県では、平成27年4月から、「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動をご存じですか。下記の5つの行動目標を確認してお答えください。

(○は1つ)

- 1 行動目標を含めて、知っていた
- 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった
- 3 まったく知らなかった

※5つの行動目標

【災害から命を守るための行動】

1 「知る」 身の周りの災害危険箇所や災害の種類に応じた避難場所・経路の確認

2 「察知する」 危険を知らせる気象情報・避難情報を確認する。

3 「行動する」 災害から命を守るために自ら判断して適切に行動する。

【普段から災害に備えるための行動】

4 「学ぶ」 学校、職場、地域で行われる防災教室・防災訓練に参加する。

5 「備える」 非常持出品の準備。建物の耐震化や家具の転倒防止対策を進める。

問2 あなたは、「マイ・タイムライン」^(※)を知っていますか。

※マイ・タイムライン：災害が発生する危険が生じた際、自分や家族の命を守るために、いつのタイミングで何をすべきか、また、いつ避難するのかなどをあらかじめ記載した「自らの防災行動計画」

- 1 知っている
- 2 知らない

問3 あなたは、「ひろしまマイ・タイムライン」^(※)を知っていますか。(○は1つ)

※ひろしまマイ・タイムライン:「マイ・タイムライン」の一つで、県民の皆様に自らの防災行動計画を作成していただくための広島県の取組。「ひろしまマイ・タイムライン」の教材は、県内すべての小学校に冊子版の教材を配布したり、地域の防災教室などで活用いただいている。また、ウェブ上での作成が可能な、デジタル版教材も用意している。

【冊子版】



【デジタル版】

<https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/mytimeline/>



- 1 知っている → 問3-1へ
2 知らない → 問4へ

※「QRコード」は(株)デンソーウェーブの登録商標です

【問3で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問3-1 「ひろしまマイ・タイムライン」をどこで知りましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|-----------|
| 1 県や市町などのホームページ | 6 県以外のSNS |
| 2 テレビ・ラジオ | 7 子供の宿題 |
| 3 県や市町の広報誌 | 8 職場や学校 |
| 4 県や市町の防災教室 | 9 家族・知人 |
| 5 県のSNS(ツイッター、フェイスブック) | 10 その他() |

【全員にお尋ねします】

問4 あなたは、Yahoo!防災速報アプリに実装されている「防災タイムライン」^(※)を知っていましたか。(○は1つ)

※防災タイムライン:「マイ・タイムライン」をデジタル化したもので、スマートフォンを利用して「マイ・タイムライン」を作成できる。防災タイムラインでは、住所を入力するだけで、お住まいの地域の想定危険度を確認することができたり、災害の危険性が高まった場合には、あらかじめ設定したタイミングで、防災行動開始を呼びかけるプッシュ通知が届くなど、便利な機能が多数搭載されている。

- 1 知っている → 問4-1へ
2 知らない → 問5へ

【問4で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問4－1 「防災タイムライン」をどこで知りましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 6 県以外の SNS |
| 2 テレビ・ラジオ | 7 職場や学校 |
| 3 インターネット広告（ヤフー、グーグルなど） | 8 家族・知人 |
| 4 動画広告（ユーチューブ） | 9 その他（ ） |
| 5 県の SNS（ツイッター、フェイスブック） | |

問5 あなたのご家庭では、マイ・タイムラインを作成していますか。あなたご自身でなくても、同居しているご家族のどなたかが作成している場合は「作成している」とお答えください。

(〇は1つ)

- 1 「ひろしまマイ・タイムライン」を作成している
- 2 Yahoo!防災速報アプリの「防災タイムライン」を作成している
- 3 「ひろしまマイ・タイムライン」とYahoo!防災速報アプリの「防災タイムライン」のどちらも作成している
- 4 「ひろしまマイ・タイムライン」でもYahoo!防災速報アプリの「防災タイムライン」でもなく、他の方法でマイ・タイムラインを作成している
- 5 マイ・タイムラインを知っていたが、作成していない
- 6 マイ・タイムラインを知らなかったので作成していない

【問5で1, 3（「ひろしまマイ・タイムライン」を作成している）と回答した方にお尋ねします。】

問5－1 あなたが「ひろしまマイ・タイムライン」を作成しようと思ったきっかけは何ですか。

(〇はいくつでも)

- 1 子供の宿題で出されたから、または子供が作りたいと言ったから
- 2 もともとマイ・タイムラインに関心があったから
- 3 防災教室や防災講演会などで作ることを勧められたから
- 4 広島県が作成を推奨していることを知ったから
- 5 人から作成することを誘われたから
- 6 災害に関する報道を見て必要だと思ったから
- 7 引っ越しなどで環境が変わったから
- 8 その他（ ）

【問5で1, 3（「ひろしまマイ・タイムライン」を作成している）と回答した方にお尋ねします。】

問5-2 作成した「ひろしまマイ・タイムライン」は、次のうちどれですか。（○は1つ）

- 1 小学校で宿題として出された冊子版（小学生用）
- 2 冊子版（一般用：「保存用」とだけ右上に記載されているもの）
- 3 デジタル版（専用ウェブサイトで作成）

【冊子版（小学生用）】



【冊子版（一般用）】



【問5で1, 3（「ひろしまマイ・タイムライン」を作成している）と回答した方にお尋ねします。】

問5-3 「ひろしまマイ・タイムライン」を作成してどう感じましたか。（○はいくつでも）

- 1 簡単に作成できた
- 2 作成するのが大変難しかった
- 3 作成するのに大変な時間がかかった
- 4 災害が起こりそうなときに参考にしたら、適切な避難ができると感じた
- 5 作成する過程で、防災に関するさまざまな知識を得た
- 6 適切に作れているか不安である
- 7 災害時に本当に役立つかわからない
- 8 その他（ ）

【問5で2, 3（「防災タイムライン」を作成している）と回答した方にお尋ねします。】

問5-4 Yahoo!防災速報アプリの「防災タイムライン」を作成してどう感じましたか。

（○はいくつでも）

- 1 簡単に作成できた
- 2 作成するのが大変難しかった
- 3 作成するのに大変な時間がかかった
- 4 災害が起こりそうなときに参考にしたら、適切な避難ができると感じた
- 5 作成する過程で、防災に関するさまざまな知識を得た
- 6 適切に作れているか不安である
- 7 災害時に本当に役立つかわからない
- 8 その他（ ）

【問5で「5 マイ・タイムラインを知っていたが、作成していない」と回答した方にお尋ねします。】

問5-5 作成しなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

- 1 興味はあったが、どうやって教材を入手したら良いか分からなかった
- 2 興味はあったが、作り方がわからなかった
- 3 興味はあったが、作る時間がなかった
- 4 興味はあったが、家族が同意してくれなかった
- 5 作成する必要性が分からなかった
- 6 難しそうなので作成したいと思わない
- 7 作成しなくても、避難すべき時は適切に避難できるから
- 8 災害が起きても、避難する必要はないから
- 9 その他 ()

【問5で「6 マイ・タイムラインを知らなかったので作成していない」と回答した方にお尋ねします。】

問5-6 あなたは、これからマイ・タイムラインを作成しようと思いますか。(○は1つ)

- 1 作成しようと思う
- 2 作成する必要性がわからないので、作成しようと思わない
- 3 作成しても役に立つかわからないので、作成しようと思わない
- 4 わからない

【全員にお尋ねします】

問6 あなたがお住まいの地域は、水害・土砂災害の危険性がありますか。お住まいが該当する区域に立地するかお答えください。(①, ②各項目で○は1つ)

	自宅が区域に 立地している	自宅は区域に 立地していない	分からない
① 洪水浸水想定区域	1	2	3
② 土砂災害警戒区域 土砂災害特別警戒区域	1	2	3

問7 あなたは、お住まいの地域で発生するおそれのある災害の危険性に応じた避難場所や避難経路の確認を行っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|---|-------------|
| 1 まったくしていない | → | 問7-1, 問7-3へ |
| 2 少しはしている | } | 問7-2, 問7-3へ |
| 3 かなりしている | | |
| 4 十分にしている | | |

問 7-1 今後、「避難場所や避難経路の確認」をしようと思いますか。(○は1つ)

- 【問7で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

- 1 市町が配布したハザードマップ
- 2 県のホームページや国や市町などのホームページ
- 3 スマートフォンなどに登録したアプリ（Yahoo!防災速報）
- 4 スマートフォンなどに登録したアプリ（ひろしま避難誘導アプリ「避難所へ Go!」）
- 5 スマートフォンなどに登録したアプリ（その他）
- 6 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 7 地域の方（個人、自主防災組織、消防団など）から教えてもらった
- 8 市役所（町役場）の人から聞いた
- 9 防災教室や防災訓練
- 10 その他（ ）

問 7-3 あなたは、避難する場所を複数か所決めていますか。また、避難場所までの避難経路の確認を行っていますか。なお、避難する場所は、市町が指定している避難場所でなくとも、安全な場所（親族・知人宅、宿泊施設など）であれば構いません。（〇は1つ）

- 1 複数か所決めており、経路の確認も行っている
- 2 複数か所決めていないが、経路の確認は行っていない
- 3 1か所だけ決めていない
- 4 まったく決めていない

※分散避難：感染症が広がるリスクを下げることを目的として、市町が指定する避難場所以外にも、親戚・知人宅、宿泊施設など、様々な避難先に、地域の人たちが分散して避難するという考え方

- 12

【問8で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問8-1 「分散避難」を知ったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 5 県や市町のイベント |
| 2 テレビ・ラジオ | 6 職場や学校 |
| 3 県や市町の広報誌 | 7 家族・知人 |
| 4 インターネットやSNS | 8 その他() |

【全員にお尋ねします。】

問9 災害が起こりそうな場合に、気象情報や、大雨警報、避難情報などの防災情報をどのような方法で入手していますか。(〇はいくつでも)

- 1 テレビ
- 2 テレビのデータ放送
- 3 ラジオ
- 4 インターネット(気象庁やNHKのホームページなど)
- 5 県や市町の防災情報メール
- 6 市町の防災無線
- 7 スマートフォンなどに登録したアプリ(Yahoo!防災速報アプリ)
- 8 スマートフォンなどに登録したアプリ(その他のアプリ)
- 9 ツイッターやフェイスブックなどのSNS
- 10 町内の人や消防団等からの連絡
- 11 固定電話向けの一斉電話伝達サービス
- 12 その他()
- 13 入手していない

【問9で「4 インターネット」と回答した方にお尋ねします。】

問9-1 防災情報をインターネットで入手する際、次のサイト等を利用したことはありますか。
(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1 広島県防災 Web | 4 津波・高潮災害ポータル |
| 2 洪水ポータルひろしま | 5 広島県ため池マップ |
| 3 土砂災害ポータルひろしま | 6 Yahoo!大雨警戒レベルマップ |

問10 あなたは、携帯電話・スマートフォンまたはタブレット端末を持っていますか。

(〇は1つ)

- 1 スマートフォンまたはタブレット端末を持っている
- 2 携帯電話を持っており、メール機能も使用している
- 3 携帯電話を持っているが、メール機能は使用していない
- 4 いずれも持っていない

問 11 あなたは、県又は市町の防災情報メールや防災アプリなどの登録を行っていますか。

(○はいくつでも)

- 1 県や市町の防災メール
- 2 Yahoo!防災速報
- 3 NHK ニュース・防災アプリ
- 4 goo 防災アプリ
- 5 全国避難所ガイド アプリ
- 6 ひろしま避難誘導アプリ「避難所へ Go!」
- 7 その他 ()
- 8 登録していないが、今後しようと思う
- 9 登録していないし、今後もしようと思わない

} 問 11-1 へ

} 問 11-2 へ

【問 11 で「1～7」と回答した方にお尋ねします。】

問 11-1 防災情報メール、防災アプリなどを登録した理由、きっかけは何ですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|------------------------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 8 マイ・タイムラインの作成 |
| 2 テレビ・ラジオ | 9 県や市町の防災訓練、防災教室 |
| 3 県や市町の広報誌 | 10 職場や学校 |
| 4 インターネット広告 | 11 家族・知人 |
| 5 動画広告(ユーチューブ) | 12 携帯電話・スマートフォン、タブレット端末等の販売店 |
| 6 ツイッターやフェイスブックなどの SNS | 13 その他 () |
| 7 県や市町のイベント | |

【問 11 で「8 登録していないが、今後しようと思う」「9 登録していないし、今後もしようと思わない」と回答した方にお尋ねします。】

問 11-2 登録していない理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 登録方法が分からないから | 5 通知の回数が多すぎるから |
| 2 登録方法が複雑で面倒だから | 6 防災以外に役立つ情報が少ないから |
| 3 住んでいる場所が安全なため登録する必要性がないから | 7 通信料がかかるから |
| 4 防災に関心がないから | 8 その他 () |

【全員にお尋ねします。】

問 12 あなたは、避難するかどうかの判断をする際に、行政等が発する災害情報をどの程度参考にしますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 かなり参考にする | 3 どちらかといえば参考にしない |
| 2 どちらかといえば参考にする | 4 まったく参考にしない |

問 13 あなたは、現在、3日分以上の食料や飲料水の備蓄を行っていますか。(○は1つ)

- 1 まったくしていない → 問 13-1 へ
 - 2 少しはしている
 - 3 かなりしている
 - 4 十分にしている
- } 問 13-3 へ

【問 13 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 13-1 今後、「3日分以上の食料や飲料水の備蓄」を行おうと思いますか。(○は1つ)

- 1 今後しようと思う → 問 14 へ
- 2 今後もしようと思わない → 問 13-2 へ

【問 13-1 で「2 今後もしようと思わない」と回答した方にお尋ねします。】

問 13-2 今後、備蓄をしようと思わないのは、なぜですか。(○はいくつでも)

- 1 何をどれくらい備えればよいか分からないから
- 2 災害が起きても自分が被災する可能性が低いから
- 3 手間や費用がかかるから
- 4 備えていても消費期限が来たら、無駄になるから
- 5 保管する十分なスペースがないから
- 6 3日間も食料が入手できなくなるような災害は起きないと思っているから
- 7 災害時には行政が食料を供給してくれると思っているから
- 8 その他 ()

【問 13 で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問 13-3 「3日分以上の食料や飲料水の備蓄」を行ったきっかけは、なんですか。

(○はいくつでも)

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 インターネットや SNS
- 5 県や市町のイベント
- 6 県や市町の防災訓練、防災教室
- 7 ひろしまマイ・タイムラインの作成
- 8 Yahoo!防災速報(防災タイムライン)
- 9 職場や学校
- 10 家族・知人
- 11 ホームセンター等の販売店で防災コーナーがあったから
- 12 避難した経験があるから
- 13 大きな災害があったから
- 14 その他 ()

【全員にお尋ねします。】

問 14 あなたは、現在、食料と飲料水以外の非常持出品（貴重品、懐中電灯、医薬品、衣類など）の準備を行っていますか。（○は1つ）

- | | |
|-------------|------------|
| 1 まったくしていない | → 問 14-1 へ |
| 2 少しはしている | } 問 15 へ |
| 3 かなりしている | |
| 4 十分にしている | |

【問 14 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 14-1 今後、食料と飲料水以外の非常持出品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の準備を行おうと思いますか。（○は1つ）

- 1 今後しようと思う
- 2 今後もしようと思わない

【全員にお尋ねします。】

問 15 あなたが、過去1年間に、ご自宅で防災について学んだり、地域、職場、あるいは学校で、防災教室や防災訓練等に参加した内容をお答えください。（○はいくつでも）

- 1 地域の防災教室や防災訓練等
- 2 職場、または学校の防災教室や防災訓練等
- 3 県が実施している6月の「一斉防災教室※¹」，または，11月の「一斉地震防災訓練※²」
- 4 マイ・タイムラインの作成を通じて学習
- 5 防災に関する講演会やイベント等で学習
- 6 テレビ番組，新聞，雑誌，チラシ等で学習
- 7 インターネットで学習（ヤフー防災模試など）
- 8 スマートフォンなどに登録したアプリで学習（Yahoo!防災速報アプリの「防災トレーニング」など）
- 9 近所同士・仲間などの集いの場で，防災について話合った
- 10 家族で防災について話合った
- 11 その他（ ）
- 12 上記のいずれにも参加していない → 問 15-1 へ

※1 一斉防災教室：県が作成した教材をもとに災害危険箇所，避難場所及び避難経路の確認や状況に応じた避難行動などを身につけていただくため，昨年5～6月にかけて行った取組

※2 一斉地震防災訓練：県が作成した教材をもとに，昨年11月に行った，地震から命を守るための行動をとる訓練

【問 15 で「12 上記のいずれにも参加していない」と回答した方にお尋ねします。】

問 15－1 防災教室や防災訓練等に参加されなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

- 1 防災教室や防災訓練等は、時間が長いため
- 2 以前参加したことがあり、内容についてはすでに理解しているから
- 3 敷居が高く、参加しにくい雰囲気があるから
- 4 参加する必要性がないから
- 5 関心がないから
- 6 具体的にどのようなことをするものなのか分からないから
- 7 参加者が限定されているから
- 8 参加しても、いざというときに役立つかどうか疑わしいから
- 9 仕事や家事、育児で忙しかったから
- 10 新型コロナ等感染症の感染が怖いから
- 11 その他（ ）
- 12 実施していることを知らなかったから
- 13 地域で開催されていないから

【全員にお尋ねします。】

問 16 あなたは、今現在、家具などの転倒の防止^(※)を行っていますか。（○は 1 つ）

※家具などの転倒の防止…金具や突っ張り棒、ベルト等による家具固定、転倒防止板の挟み込みなどによる対策のほか、寝室にはできるだけ家具を配置しないなど、地震によって家具等の下敷きにならないための備えも含む

- 1 まったくしていない → 問 16－1，問 16－2 へ
 - 2 少しはしている
 - 3 かなりしている
 - 4 十分にしている
- } 問 16－3 へ

【問 16 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 16－1 家具などの転倒防止を行っていないのはなぜですか。（○はいくつでも）

- 1 どのようにすればよいかわからないから
- 2 大きな地震が起こるかどうか分からないから
- 3 手間や費用がかかるから
- 4 実際に効果があるかどうか分からないから
- 5 倒れそうな家具等はあるが、倒れても支障のないところに置いてあるから
- 6 倒れそうな家具等は置いておらず転倒の防止を行う必要がないから
- 7 地震は起こらないと思っているから
- 8 住まいが賃貸住宅であるため、手を加えることができないから
- 9 その他（ ）

問 16-2 今後、家具などの転倒防止を行おうと思いますか。(○は1つ)

- 【問16で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 インターネットや SNS
- 5 県や市町のイベント
- 6 県や市町の防災教室，防災訓練
- 7 職場や学校
- 8 家族・知人
- 9 ホームセンター等の販売店で防災コーナーがあったから
- 10 避難した経験があるから
- 11 大きな災害があったから
- 12 その他（ ）

Ⅲ あなたのことについてお尋ねします

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- 1 男性 2 女性 3 その他

問2 あなたの年齢はいくつですか。(令和4年2月1日時点)

() 歲

問3 令和4年2月1日時点で、あなたはどちらにお住まいでしたか。

	市区町	町丁目・大字くらいまでお書きください	丁目 大字
--	-----	--------------------	----------

問4 主としてどのような生活形態ですか。(○は1つ)

- 1 企業・団体等で勤務している（正規の従業員、パート、派遣社員など）
- 2 自営業を営んでいる、または手伝っている
- 3 農・林・漁業を営んでいる、または手伝っている
- 4 家事や育児、または介護などで在宅している
- 5 学生
- 6 定年退職などで在宅している
- 7 その他（ ）

問5 現在のあなたの世帯の人数はあなたを含め何人ですか。

()人

問6 現在、あなたご自身を含め、同居しているご家族の中に、次の方やペットがいますか。

(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|----------|----|--------------------|
| 1 | 80 歳以上の人 | 9 | 小学 1 年生 |
| 2 | 高校生 | 10 | 未就学児童（3～5 歳） |
| 3 | 中学生 | 11 | 乳児（3 歳未満） |
| 4 | 小学 6 年生 | 12 | 障がいのある人もしくは体が不自由な人 |
| 5 | 小学 5 年生 | 13 | 病気の人 |
| 6 | 小学 4 年生 | 14 | ペット |
| 7 | 小学 3 年生 | 15 | いずれもない |
| 8 | 小学 2 年生 | | |

問7 あなたのお住まいの居住年数と居住形態を教えてください。

(①, ②, ④の()には数字を記入し, ③, ④は○は1つ)

①居住年数	(年)
②この地域に代々 住んでいる年数	(年)
③ご自宅の種類	1 持家 2 賃貸 3 社宅 4 その他
④居住形態	1 一戸建て木造(築 年) 2 一戸建て鉄骨造住宅(築 年) 3 ()階建ての集合住宅の()階(築 年)

問8 県では、災害から命を守るために、県民のみなさんにとっていただきたい行動などを分かりやすく掲載した、ホームページ「みんなで減災 はじめの一歩」を開設しています。このホームページについてご存知ですか。(○は1つ)

- 1 知っており、利用したことがある
- 2 聞いたことはあるが、利用したことはない
- 3 聞いたことがない

問9 防災・減災について自由なご意見をお願いします。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。